

2016/8/22

## 柏の景気情報（平成28年7月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成28年7月分）

○ 調査期間 : 平成28年7月25日 ~ 平成28年8月8日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	76	48.7%
建設	44	21	47.7%
製造	33	17	51.5%
卸・小売	43	23	53.5%
サービス	36	15	41.7%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。  
と調査表

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合$$

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成28年7月の調査結果のポイント】

◀業況DIはやや改善。先行きは依然として不透明で、慎重な見方が続く。▶

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.6(前月水準▲27.8)となり、マイナス幅が4.2ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業±0.0(同▲9.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲39.1(同▲51.8)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲6.6(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲47.0(同▲35.2)である。

【建設業】からは、「顧客で熊本応援の気持ちがある方が多く、1家庭で20畳を超える和室がある顧客からも畳の受注が増加している。」(内装工事業)、「全体的な不況感があり、活気が無い。材料・受注単価は落ち着いているが、熟練者の高齢化・廃業による人手不足になり、今後それがさらに深刻になっていくと、工事の受注に影響が出始め、売上も横ばいで何とか現状維持が出来ればといった業況となりそう。」(その他の職別工事業)、「熊本地震による住宅の耐震性のニーズは着実に増えている。」(一般土木建築工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「約1千万円かけて新規設備の導入、入替を実施し、業務の効率化を図る。」(その他の金属製品製造業)、「昨年末から続いている受注の冷え込みが売上高、収益に影響を及ぼしていたが、ここきて多少の受注の盛り返しがあり、下期の売上、収益改善に期待している。また、加工業者からの新規売り込みが多い。」(その他の機械・同部分品製造業)、「売上高ばかりを追求するのではなく、利益を精査していくことが経営において重要である。そのためには営業・経理部門の総合認識が必要。」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「最近の気候は例年の統計と異なり、西日本、東日本と梅雨明けが不透明となった天気がしばらく続いている。これにより、日照時間、降水量、気温等が作物の生育状況に影響を与えることが懸念されている。夏季休暇で大勢の人が集まるイベントなどが開催されており、上記のような気象条件の中で、生鮮食料品を迅速に、安心・安全供給を図っていきたい。」(食料・飲料卸売業)、「婦人衣料を中心に夏物は好調に推移。住居関連は売り場縮小後全体的に悪化が続くも、介護用品だけは好調となった。」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「不動産の購入意欲は高い傾向にあるが、価格に対しては厳しく、物件を見学してから契約を結ぶまでの期間が長くなっており、慎重な姿勢の顧客が多い。価値の高い物件の売れ行きは好調。」(不動産管理業)、「売上・利益ともに上がっているが、利益率は下がっている。パート、アルバイトの件数が高騰する一方。」(食堂・レストラン)、「円高傾向、燃油サーチャージなしのため個人の海外旅行が人気。韓国・中国への旅行客が回復傾向だが欧州はテロの影響で減少。国内個人旅行は北海道、九州が人気。秋口の法人需要が旺盛になり、職場内コミュニケーションを図るプログラムが人気。」(旅行業)、「優良な収益物件が売買市場から枯渇している状態がしばらく続いている。」(不動産管理業)、「商品の値上げ競争は一段落し、今後は逆にメーカーとの値引きの商談に移行すると思われる。また、昨年の販売予測で仕入れた商品が過剰在庫となり、厳しい状況である。」(その他の飲食料点小売業)などのコメントが寄せられた。

◎売上減少

各業種より、「インバウンド売上が減少傾向になっている。」(その他の各種商品小売業)、「食品は競合の出店以降伸び悩み。特に土用の丑の日が月末になり、柏まつりと重なり売上ロスが多かった。中元ギフト商戦も大きなピークが無く、7月度は前年比80%の状況。」(その他の各種商品小売業)、「設備投資がやや緩やかになっている印象。下期は業況がかなり落ち込む可能性がある。」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

◎競争激化(出店ラッシュ)

各業種より、「大型SCやスーパーの相次ぐ出店が業績に影響を及ぼしている。」(菓子・パン小売業)、「各衣料品メーカー商品の生産調整が進み、在庫不足でバーゲン対応商品がやや品薄になっている。買回りは周辺に大型SCが多く出店したため売上減少になっている。」(婦人・子供服小売業)、「今年の柏市への新規食料品小売業の進出は過去20年の間で最も多いと感じられる。他店との差別化を一層進め、新しい取り組みを考えていかないと、昨年比の水準に回復させることは容易ではない。また、人手不足は今後も続くと考えられ、時給のアップだけでなく、働く人の環境についてももっと考えていかなければならない。」(各種食料品小売業)などのコメントが寄せられた。

◎先行き不安(受注減少)

各業種より、「新築物件の受注が減少しており、先行きも不透明。リフォーム案件は入ってくるが、利益が伸びない。」(その他の職別工事業)、「9月は上半期の×日であることから受注は増加する見込みだが、今年の7、8月は例年に無く少ない状況。」(石工・れんが・タイル・ブロック工事業)、「施工単価・仕入材料単価は変動していないが、先行き見通しがつかめない状況。」(電気工事業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
2月	▲26.3	▲13.6	▲50.0	▲40.0	△7.6
3月	▲25.6	▲4.7	▲44.4	▲34.6	▲15.3
4月	▲26.4	△5.8	▲37.5	▲54.1	±0.0
5月	▲33.3	±0.0	▲61.1	▲60.0	▲6.6
6月	▲27.8	▲9.0	▲35.2	▲51.8	±0.0
7月	▲23.6	±0.0	▲47.0	▲39.1	▲6.6
見通し	▲14.4	▲4.7	▲11.7	▲21.7	▲20.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成28年7月の業況についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23. 6(前月水準▲27. 8)となり、マイナス幅が4. 2ポイント縮小した。

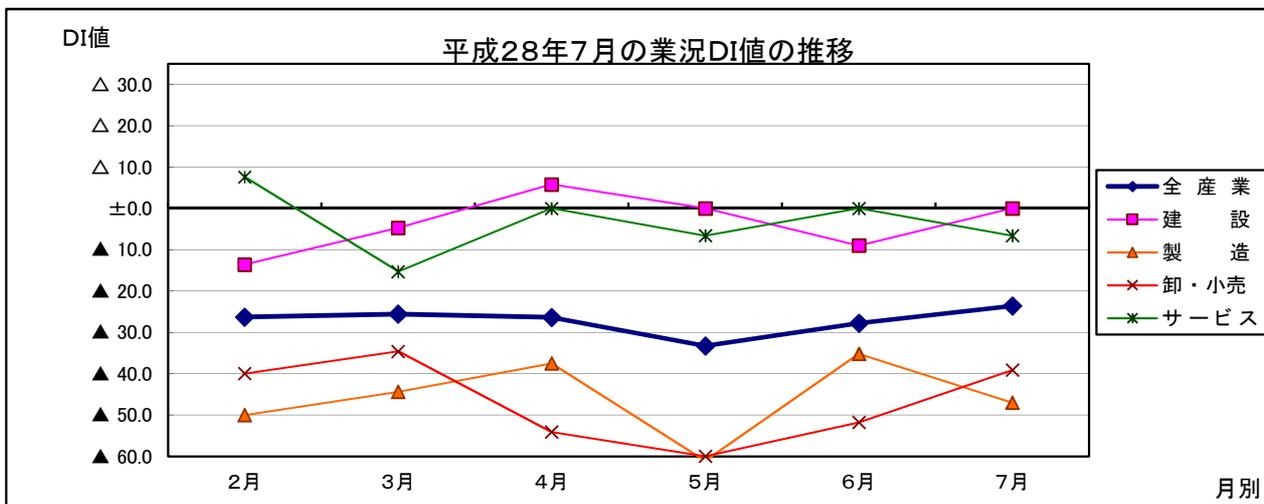
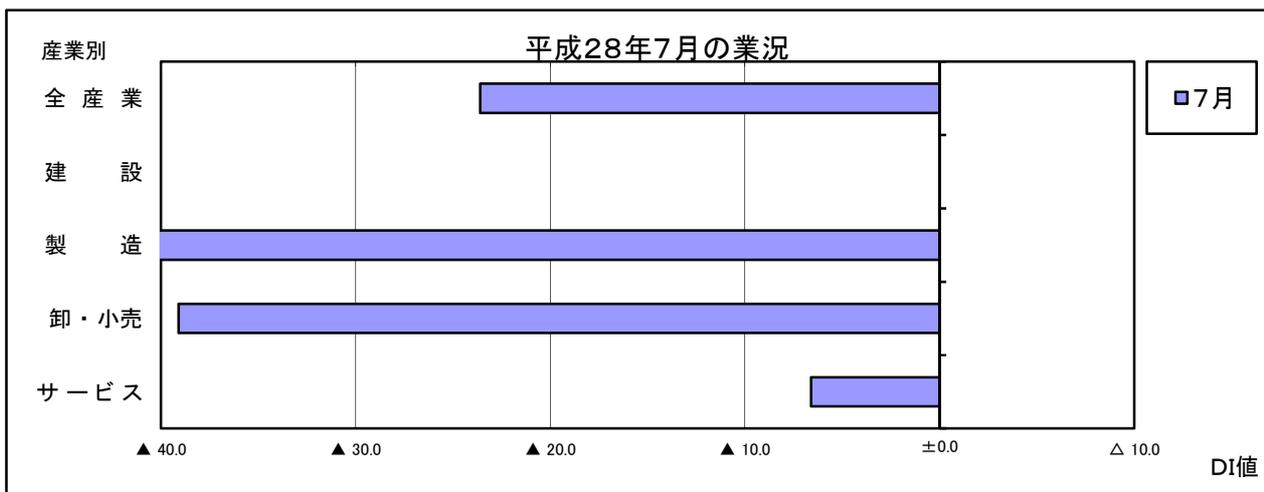
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業±0. 0(同▲9. 0)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲39. 1(同▲51. 8)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲6. 6(同±0. 0)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲47. 0(同▲35. 2)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14. 4(前月水準▲11. 3)となり、マイナス幅が3. 1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲21. 7(同▲37. 0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲20. 0(同±0. 0)、製造業▲11. 7(同△5. 8)、建設業▲4. 7(同±0. 0)である。

平成28年7月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲ 26.3	▲ 25.6	▲ 26.4	▲ 33.3	▲ 27.8	▲ 23.6	▲ 14.4 ( ▲ 11.3 )
建設	▲ 13.6	▲ 4.7	△ 5.8	±0.0	▲ 9.0	±0.0	▲ 4.7 ( ±0.0 )
製造	▲ 50.0	▲ 44.4	▲ 37.5	▲ 61.1	▲ 35.2	▲ 47.0	▲ 11.7 ( △ 5.8 )
卸・小売	▲ 40.0	▲ 34.6	▲ 54.1	▲ 60.0	▲ 51.8	▲ 39.1	▲ 21.7 ( ▲ 37.0 )
サービス	△ 7.6	▲ 15.3	±0.0	▲ 6.6	±0.0	▲ 6.6	▲ 20.0 ( ±0.0 )



【平成28年7月の売上についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.6(同▲20.2)であり、マイナス幅が3.4ポイント拡大した。

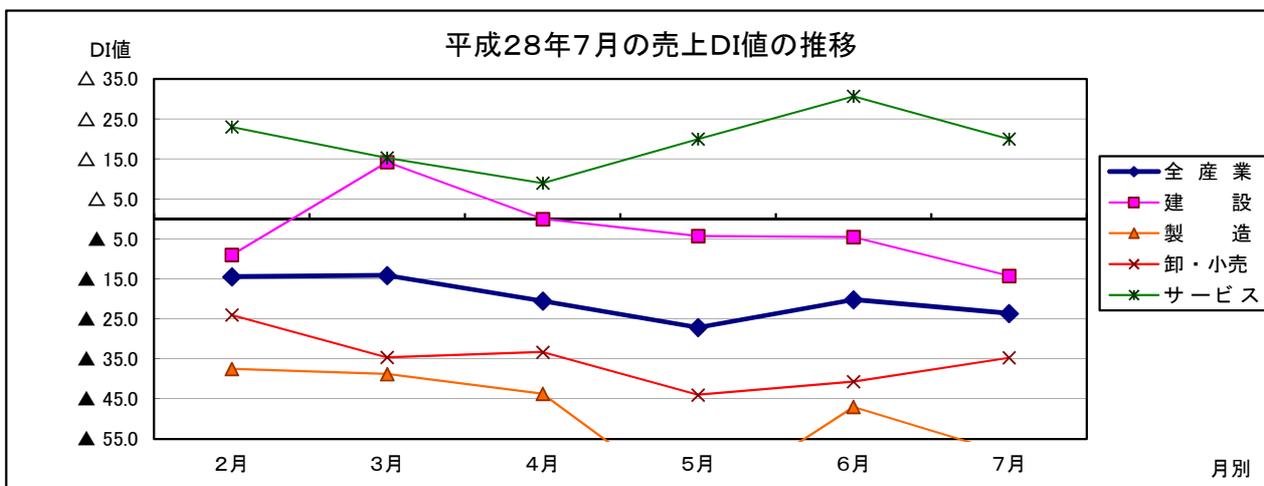
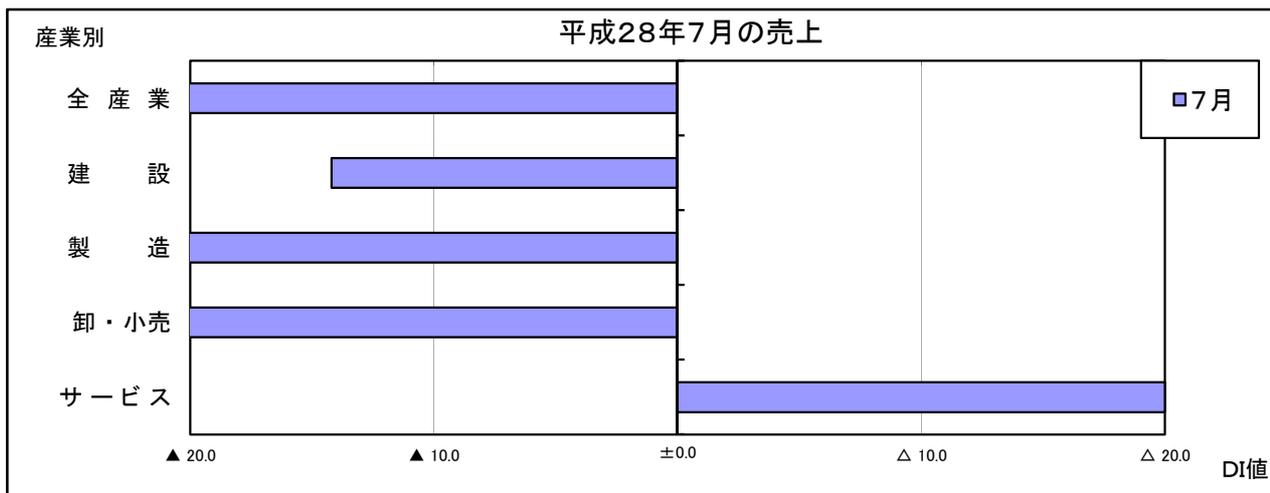
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲34.7(同▲40.7)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△20.0(同△30.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲58.8(同▲47.0)、建設業▲14.2(同▲4.5)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.5(前月水準▲13.9)となり、マイナス幅が7.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△4.7(同△4.5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲17.3(同▲44.4)であり、マイナス幅が27.1ポイントと大幅に縮小する見通しである。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△6.6(同△15.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲17.6(同▲1

平成28年7月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲14.4	▲14.1	▲20.5	▲27.1	▲20.2	▲23.6	▲6.5(▲13.9)
建設	▲9.0	△14.2	±0.0	▲4.3	▲4.5	▲14.2	△4.7(△4.5)
製造	▲37.5	▲38.8	▲43.7	▲72.2	▲47.0	▲58.8	▲17.6(▲11.7)
卸・小売	▲24.0	▲34.6	▲33.3	▲44.0	▲40.7	▲34.7	▲17.3(▲44.4)
サービス	△23.0	△15.3	△9.0	△20.0	△30.7	△20.0	△6.6(△15.3)



【平成28年7月の採算についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.6(前月水準▲31.6)となり、マイナス幅が7.0ポイント縮小した。

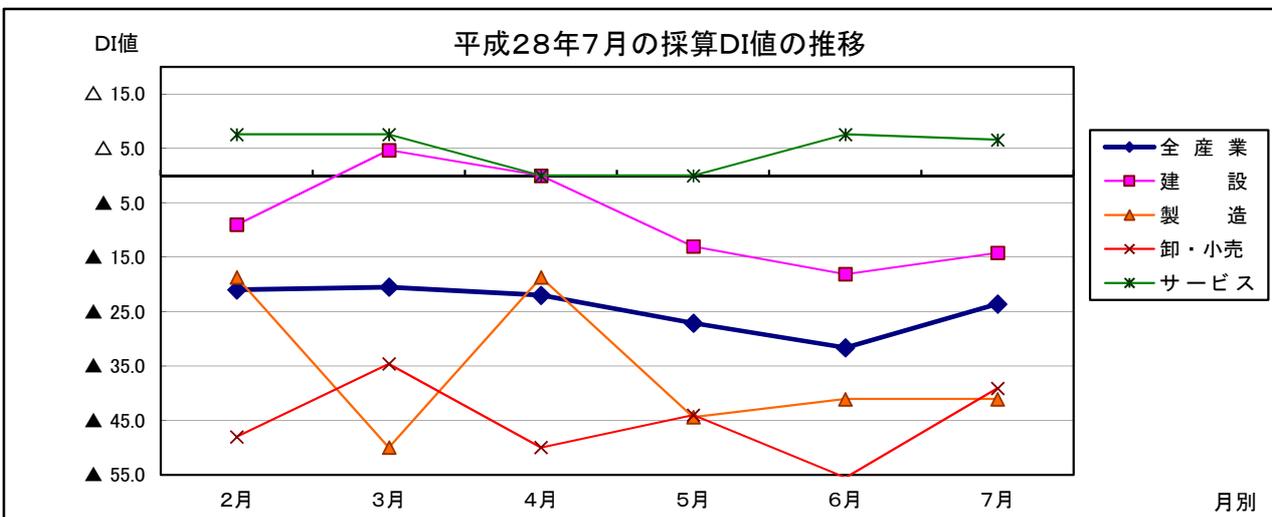
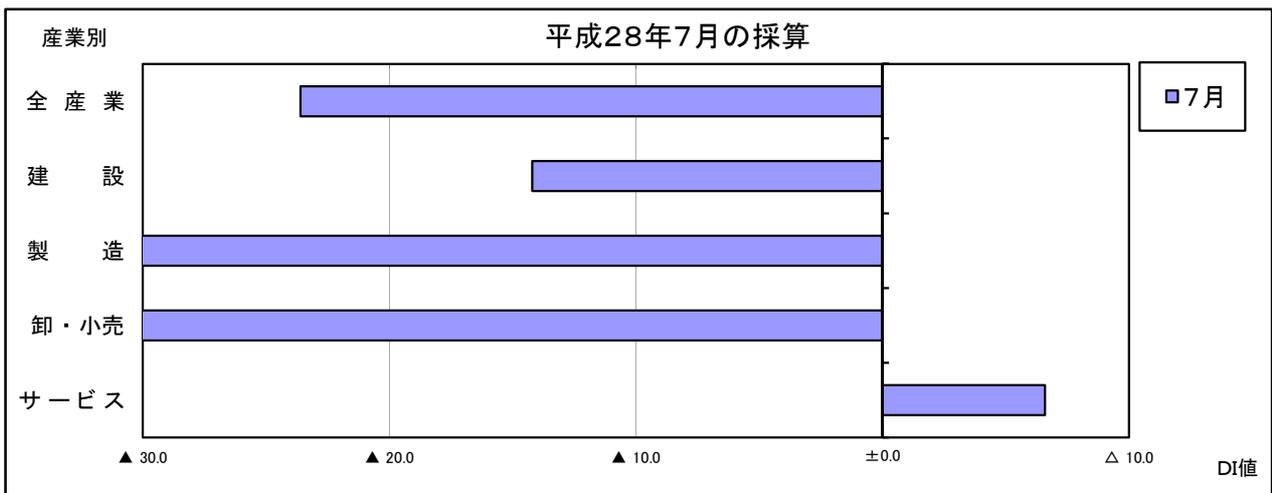
業種別では、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲39.1(同▲55.5)、建設業▲14.2(同▲18.1)である。変わらない業種は製造業▲41.1(同▲41.1)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△6.6(同△7.6)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.4(前月水準▲17.7)であり、マイナス幅が3.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲26.0(同▲44.4)である。変わらない見通しの業種は、製造業▲11.7(同▲11.7)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同△7.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲14.2(同▲4.5)である。

平成28年7月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲21.0	▲20.5	▲22.0	▲27.1	▲31.6	▲23.6	▲14.4(▲17.7)
建設	▲9.0	△4.7	±0.0	▲13.0	▲18.1	▲14.2	▲14.2(▲4.5)
製造	▲18.7	▲50.0	▲18.7	▲44.4	▲41.1	▲41.1	▲11.7(▲11.7)
卸・小売	▲48.0	▲34.6	▲50.0	▲44.0	▲55.5	▲39.1	▲26.0(▲44.4)
サービス	△7.6	△7.6	±0.0	±0.0	△7.6	△6.6	±0.0(△7.6)



【平成28年7月の仕入単価についての状況】

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲19.7(前月水準▲18.9)となり、マイナス幅が0.8ポイント拡大した。

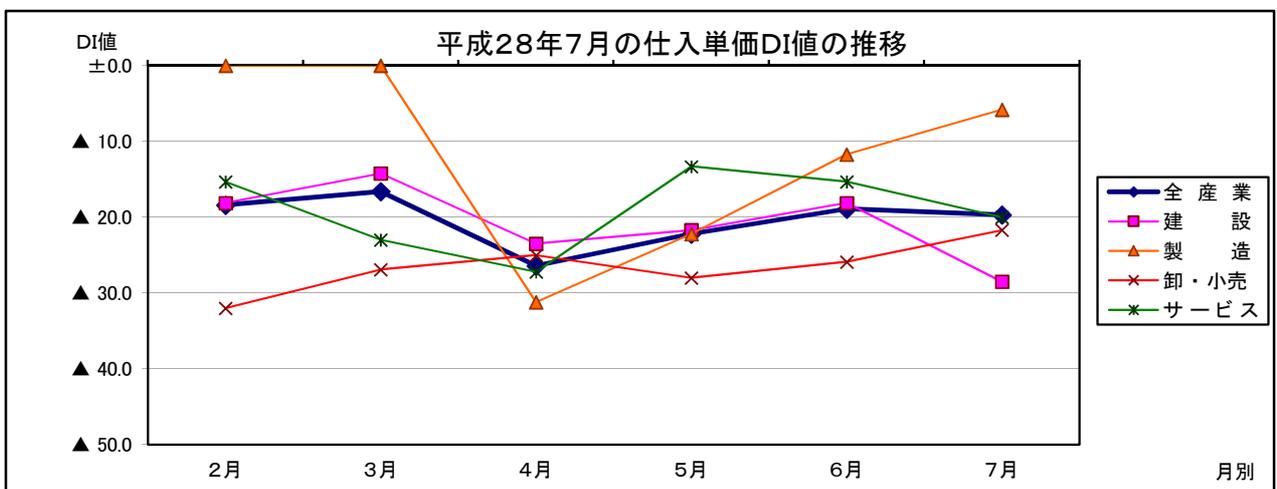
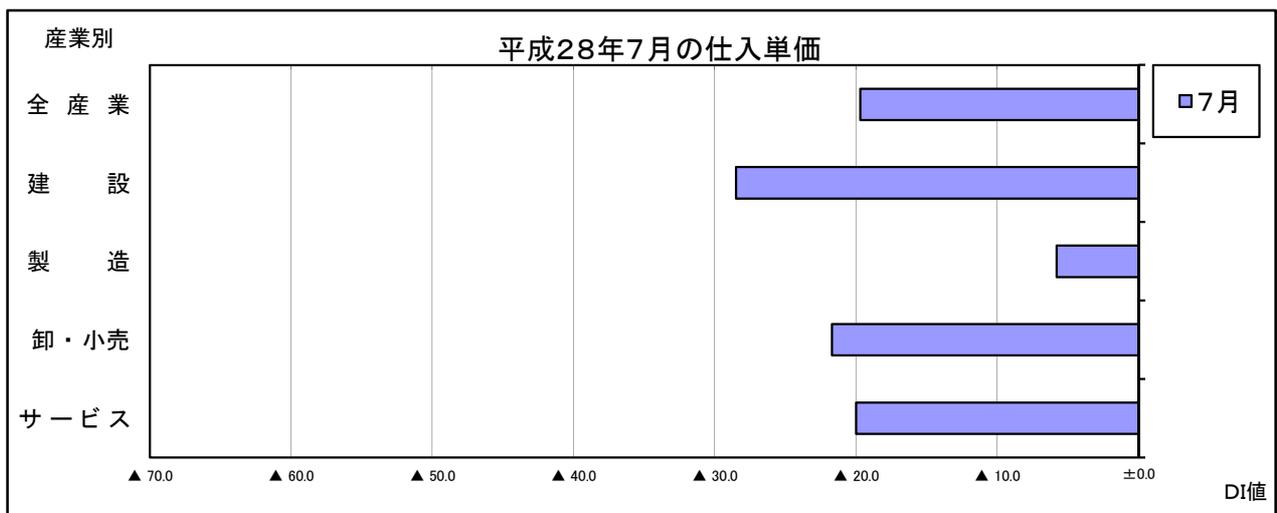
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲5.8(同▲11.7)、卸小売業▲21.7(同▲25.9)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲28.5(同▲18.1)、サービス業▲20.0(同▲15.3)である。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.7(前月水準▲20.2)となり、マイナス幅が4.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲13.3(同▲30.7)、卸小売業▲17.3(同▲22.2)、製造業▲17.6(同▲23.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲14.2(同▲9.0)、である。

平成28年7月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲18.4	▲16.6	▲26.4	▲22.2	▲18.9	▲19.7	▲15.7(▲20.2)
建設	▲18.1	▲14.2	▲23.5	▲21.7	▲18.1	▲28.5	▲14.2(▲9.0)
製造	±0.0	±0.0	▲31.2	▲22.2	▲11.7	▲5.8	▲17.6(▲23.5)
卸・小売	▲32.0	▲26.9	▲25.0	▲28.0	▲25.9	▲21.7	▲17.3(▲22.2)
サービス	▲15.3	▲23.0	▲27.2	▲13.3	▲15.3	▲20.0	▲13.3(▲30.7)



【平成28年7月の従業員についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△13.1(前月水準△11.3)となり、プラス幅が1.8ポイント拡大した。

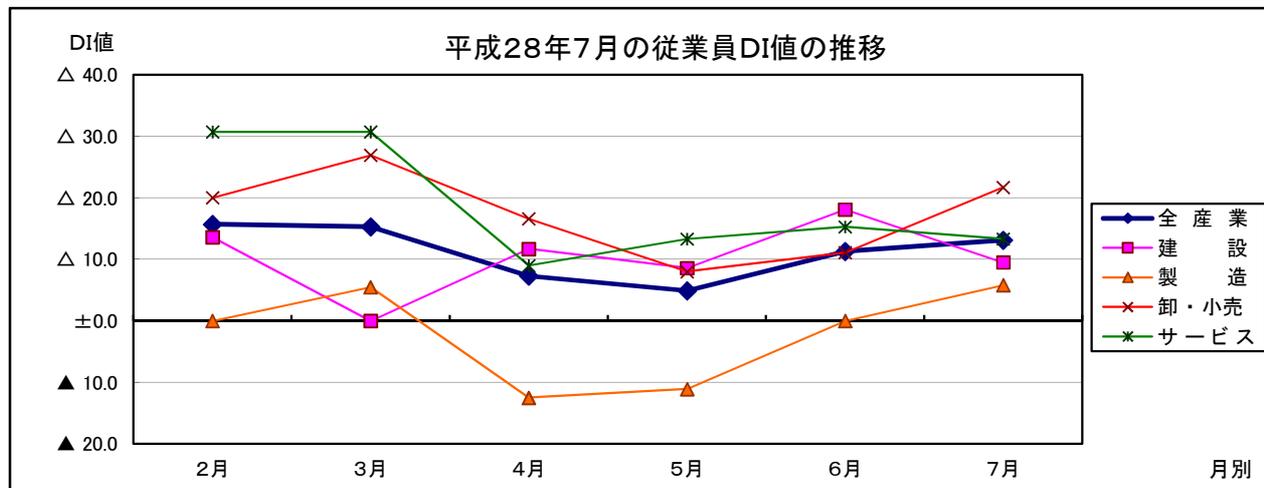
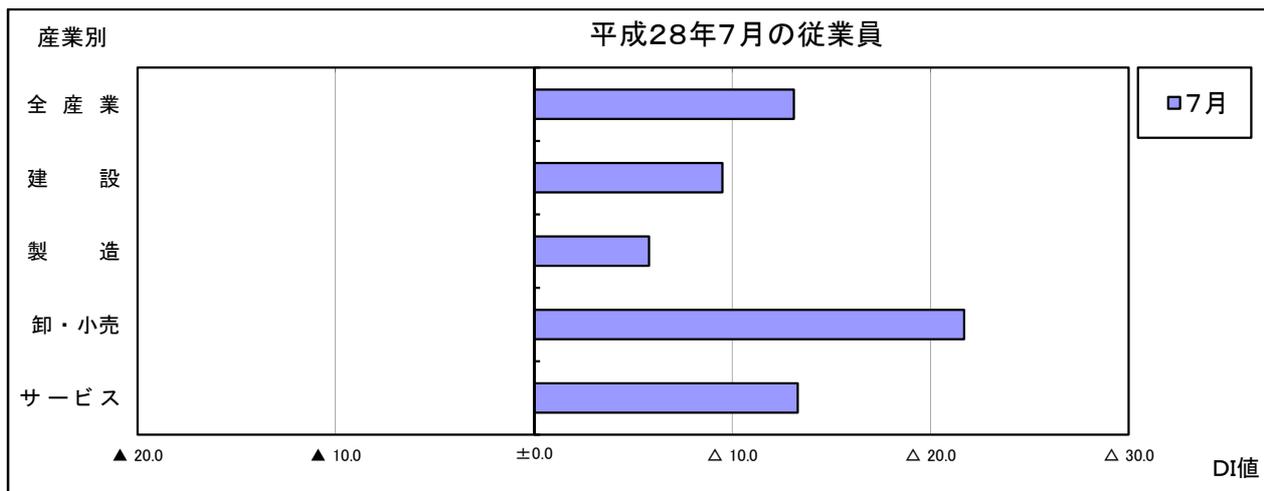
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業△21.7(同△11.1)、製造業△5.8(同±0.0)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業△9.5(同△18.1)、サービス業△13.3(同△15.3)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、△14.4(前月水準△17.7)であり、プラス幅が3.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△28.5(同△27.2)、である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△5.8(同▲5.8)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業△13.0(同△25.9)、サービス業△6.6(同△15.3)である。

平成28年7月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	△15.7	△15.3	△7.3	△4.9	△11.3	△13.1	△14.4(△17.7)
建設	△13.6	±0.0	△11.7	△8.6	△18.1	△9.5	△28.5(△27.2)
製造	±0.0	△5.5	▲12.5	▲11.1	±0.0	△5.8	△5.8(▲5.8)
卸・小売	△20.0	△26.9	△16.6	△8.0	△11.1	△21.7	△13.0(△25.9)
サービス	△30.7	△30.7	△9.0	△13.3	△15.3	△13.3	△6.6(△15.3)



【平成28年7月の資金繰りについての状況】

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲3.9(前月水準▲16.4)となり、マイナス幅が12.5ポイント縮小した。

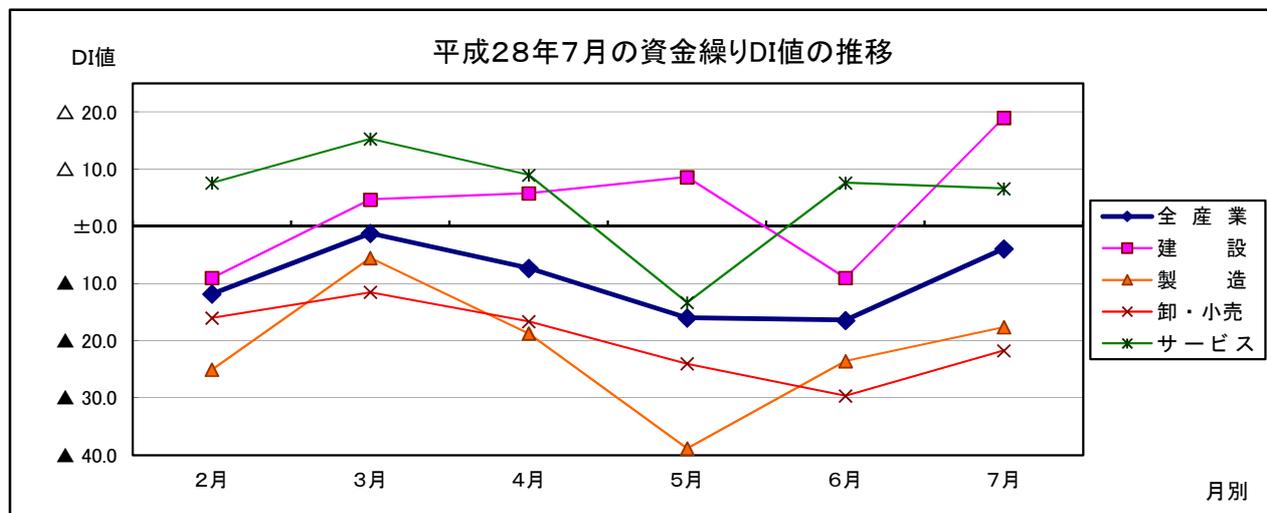
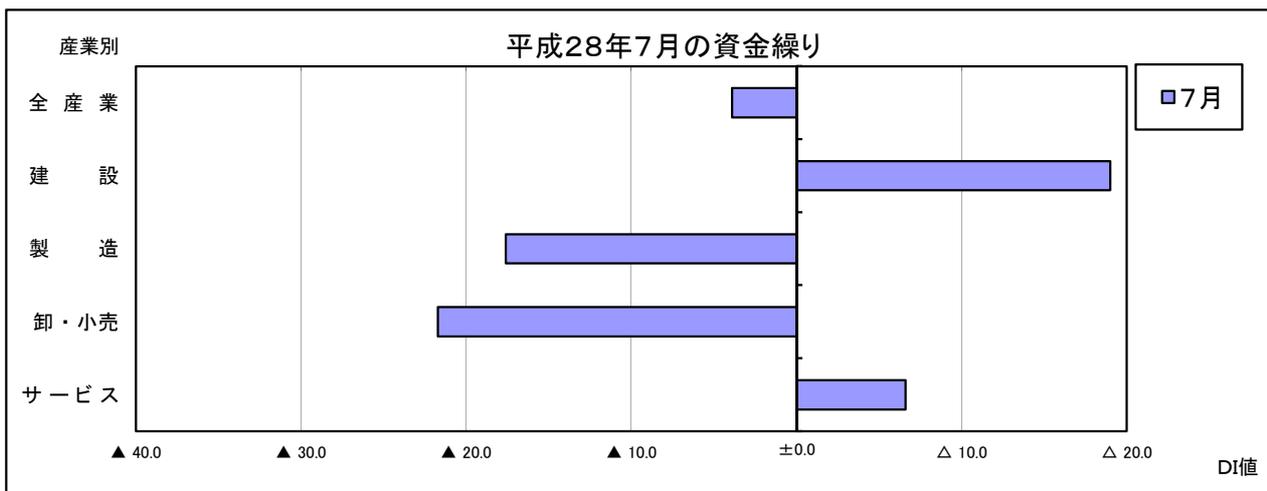
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△19.0(同▲9.0)であり、△28.0と大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲21.7(同▲29.6)、製造業▲17.6(同▲23.5)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△6.6(同△7.6)である。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、±0.0(前月水準▲6.3)となり、マイナス幅が6.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△19.0(同△4.5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲13.0(同▲22.2)である。変わらない見通しの業種は、製造業±0.0(同±0.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲6.6(同±0.0)である。

平成28年7月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成28年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲11.8	▲1.2	▲7.3	▲16.0	▲16.4	▲3.9	±0.0(▲6.3)
建設	▲9.0	△4.7	△5.8	△8.6	▲9.0	△19.0	△19.0(△4.5)
製造	▲25.0	▲5.5	▲18.7	▲38.8	▲23.5	▲17.6	±0.0(±0.0)
卸・小売	▲16.0	▲11.5	▲16.6	▲24.0	▲29.6	▲21.7	▲13.0(▲22.2)
サービス	△7.6	△15.3	△9.0	▲13.3	△7.6	△6.6	▲6.6(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 23.6	▲ 6.5	▲ 23.6	▲ 14.4	▲ 19.7	▲ 15.7	△ 13.1	△ 14.4
建設	▲ 14.2	△ 4.7	▲ 14.2	▲ 14.2	▲ 28.5	▲ 14.2	△ 9.5	△ 28.5
製造	▲ 58.8	▲ 17.6	▲ 41.1	▲ 11.7	▲ 5.8	▲ 17.6	△ 5.8	△ 5.8
卸・小売	▲ 34.7	▲ 17.3	▲ 39.1	▲ 26.0	▲ 21.7	▲ 17.3	△ 21.7	△ 13.0
サービス	△ 20.0	△ 6.6	△ 6.6	±0.0	▲ 20.0	▲ 13.3	△ 13.3	△ 6.6

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 23.6	▲ 14.4	▲ 3.9	±0.0
建設	±0.0	▲ 4.7	△ 19.0	△ 19.0
製造	▲ 47.0	▲ 11.7	▲ 17.6	±0.0
卸・小売	▲ 39.1	▲ 21.7	▲ 21.7	▲ 13.0
サービス	▲ 6.6	▲ 20.0	△ 6.6	▲ 6.6

【平成28年7月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	キーワード	業種
建設	新築物件の受注が減少しており、先行きも不透明。リフォーム案件は入ってくるが、利益が伸びない。	受注減少 利益減少 先行き不安	その他の職別工事業
	9月は上半期の×日であることから受注は増加する見込みだが、今年の7、8月は例年に無く少ない状況。	受注減少 売上減少	石工・れんが・タイル・ブロック工事業
	顧客で熊本応援の気持ちがある方が多く、1家庭で20畳を超える和室がある顧客からも量の受注が増加している。	熊本地震 受注増加	内装工事業
	施工単価・仕入材料単価は変動していないが、先行き見通しがつかめない状況。	先行き不安	電気工事業
	全体的な不況感があり、活気が無い。材料・受注単価は落ち着いているが、熟練者の高齢化・廃業による人手不足になり、今後それがさらに深刻になっていくと、工事の受注に影響が出始め、売上も横ばいで何とか現状維持が出来ればといった業況となりそう。	先行き不安 人手不足 高齢化	その他の職別工事業
	熊本地震による住宅の耐震性のニーズは着実に増えている。	熊本地震	一般土木建築工事業
製造業	約1千万円かけて新規設備の導入、入替を実施し、業務の効率化を図る。	設備投資	その他の金属製品製造業
	昨年末から続いている受注の冷え込みが売上高、収益に影響を及ぼしていたが、ここにきて多少の受注の盛り返しがあり、下期の売上、収益改善に期待している。また、加工業者からの新規売り込みが多い。	受注減少 売上減少	その他の機械・同部分品製造業
	売上高ばかりを追求するのではなく、利益を精査していくことが経営において重要である。そのためには営業・経理部門の総合認識が必要。		印刷業
卸小売	大型SCやスーパーの相次ぐ出店が業績に影響を及ぼしている。	出店ラッシュ 競争激化	菓子・パン小売業
	各衣料品メーカー商品の生産調整が進み、在庫不足でバーゲン対応商品がやや品薄になっている。買回り品は周辺に大型SCが多く出店したため売上減少になっている。	出店ラッシュ 競争激化 売上減少	婦人・子供服小売業
	インバウンド売上が減少傾向になっている。	インバウンド 売上減少	その他の各種商品小売業
	最近の気候は例年の統計と異なり、西日本、東日本と梅雨明けが不透明となった天気がしばらく続いている。これにより、日照時間、降水量、気温等が作物の生育状況に影響を与えることが懸念されている。夏季休暇で大勢の人が集まるイベントなどが開催されており、上記のような気象条件の中で、生鮮食料品を迅速に、安心・安全供給を図っていききたい。	天候不順 安定供給	食料・飲料卸売業
	婦人衣料を中心に夏物は好調に推移。住居関連は売り場縮小後全体的に悪化が続くも、介護用品だけは好調となった。食品は競合の出店以降伸び悩む。特に土用の丑の日が月末になり、柏まつりと重なり売上ロスが多かった。中元ギフト商戦も大きなピークが無く、7月度は前年比80%の状況。	夏物衣料好調 競争激化 出店ラッシュ 中元ギフト不調 売上減少	その他の各種商品小売業
	今年の柏市への新規食料品小売業の進出は過去20年の間で最も多いと感じられる。他店との差別化を一層進め、新しい取り組みを考えていかないと、昨年比の水準に回復させることは容易ではない。また、人手不足は今後も続くと考えられ、時給のアップだけでなく、働く人の環境についてももっと考えていかなければならない。	人手不足 出店ラッシュ 競争激化 差別化	各種食料品小売業
サービス業	不動産の購入意欲は高い傾向にあるが、価格に対しては厳しく、物件を見学してから契約を結ぶまでの期間が長くなっており、慎重な姿勢の顧客が多い。価値の高い物件の売れ行きは好調。	高価格物件好調	不動産管理業
	売上・利益ともに上がっているが、利益率は下がっている。パート、アルバイトの人員費は高騰する一方。	利益減少 人員費高騰	食堂・レストラン
	円高傾向、燃油サーチャージなしのため個人の海外旅行が人気。韓国・中国への旅行客が回復傾向だが欧州はテロの影響で減少。国内個人旅行は北海道、九州が人気。秋口の法人需要が旺盛になり、職場内コミュニケーションを図るプログラムが人気。	円高 海外旅行人気 法人需要増加	旅行業
	優良な収益物件が売買市場から枯渇している状態がしばらく続いている。	収益物件枯渇	不動産管理業
	商品の値上げ競争は一段落し、今後は逆にメーカーとの値引きの商談に移行すると思われる。また、昨年の販売予測で仕入れた商品が過剰在庫となり、厳しい状況である。	値上げ競争 値引き交渉 在庫過剰	その他の飲食料品小売業
設備投資がやや緩やかになっている印象。下期は業況がかなり落ち込む可能性がある。	設備投資 先行き不安	ソフトウェア業	

## ◎売上減少

各業種より、「インバウンド売上が減少傾向になっている。」(その他の各種商品小売業)、「食品は競合の出店以降伸び悩む。特に土用の丑の日が月末になり、柏まつりと重なり売上ロスが多かった。中元ギフト商戦も大きなピークが無く、7月度は前年比80%の状況。」(その他の各種商品小売業)、「設備投資がやや緩やかになっている印象。下期は業況がかなり落ち込む可能性がある。」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

## ◎競争激化(出店ラッシュ)

各業種より、「大型SCやスーパーの相次ぐ出店が業績に影響を及ぼしている。」(菓子・パン小売業)、「各衣料品メーカー商品の生産調整が進み、在庫不足でバーゲン対応商品がやや品薄になっている。買回り品は周辺に大型SCが多く出店したため売上減少になっている。」(婦人・子供服小売業)、「今年の柏市への新規食料品小売業の進出は過去20年の間で最も多いと感じられる。他店との差別化を一層進め、新しい取り組みを考えていかないと、昨年比の水準に回復させることは容易ではない。また、人手不足は今後も続くと考えられ、時給のアップだけでなく、働く人の環境についてももっと考えていかなければならない。」(各種食料品小売業)などのコメントが寄せられた。

## ◎先行き不安(受注減少)

各業種より、「新築物件の受注が減少しており、先行きも不透明。リフォーム案件は入ってくるが、利益が伸びない。」(その他の職別工事業)、「9月は上半期の×日であることから受注は増加する見込みだが、今年の7、8月は例年に無く少ない状況。」(石工・れんが・タイル・ブロック工事業)、「施工単価・仕入材料単価は変動していないが、先行き見通しがつかめない状況。」(電気工事業)などのコメントが寄せられた。

.....

## 平成28年7月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲23.6に対し、「CCI-LOBO」が▲24.5で柏の方がマイナス幅が0.9ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、両業種ともに10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業では10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲23.6に対し、「CCI-LOBO」が▲20.6で柏の方がマイナス幅が3.0ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業では10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲23.6に対し、「CCI-LOBO」が▲22.2で柏の方がマイナス幅が1.4ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、両業種ともに10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業では10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲19.7に対し、「CCI-LOBO」が▲20.8で柏の方がマイナス幅が1.1ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△13.1に対し、「CCI-LOBO」が△15.9で柏の方がプラス幅が2.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲3.9に対し、「CCI-LOBO」が▲12.1で柏の方がマイナス幅が8.9ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、両業種ともに10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業である。

# 平成28年7月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI $\geq$ 50	好調 50>DI $\geq$ 25	まあまあ 25>DI $\geq$ 0	不振 0>DI $\geq$ ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 23.6	 ±0.0	 ▲ 47.0	 ▲ 39.1	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 24.5	 ▲ 22.6	 ▲ 20.8	 ▲ 37.2	 ▲ 16.9

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 23.6	 ▲ 14.2	 ▲ 58.8	 ▲ 34.7	 △ 20.0
CCI-LOBO	 ▲ 20.6	 ▲ 23.8	 ▲ 17.0	 ▲ 30.8	 ▲ 13.2

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 23.6	 ▲ 14.2	 ▲ 41.1	 ▲ 39.1	 △ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 22.2	 ▲ 28.8	 ▲ 18.6	 ▲ 29.5	 ▲ 17.2

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 19.7	 ▲ 28.5	 ▲ 5.8	 ▲ 21.7	 ▲ 20.0
CCI-LOBO	 ▲ 20.8	 ▲ 20.8	 ▲ 14.3	 ▲ 22.9	 ▲ 24.5

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 △ 13.1	 △ 9.5	 △ 5.8	 △ 21.7	 △ 13.3
CCI-LOBO	 △ 15.9	 △ 15.2	 △ 6.8	 △ 21.2	 △ 23.3

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 3.9	 △ 19.0	 ▲ 17.6	 ▲ 21.7	 △ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 12.1	 ▲ 8.2	 ▲ 10.6	 ▲ 19.9	 ▲ 12.4

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# 柏の景気情報

(7月の調査結果のポイント)

調査期間：平成28年7月25日～8月8日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に  
ヒアリング、回答数76件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
2月	▲26.3	▲13.6	▲50.0	▲40.0	△7.6
3月	▲25.6	▲4.7	▲44.4	▲34.6	▲15.3
4月	▲26.4	△5.8	▲37.5	▲54.1	±0.0
5月	▲33.3	±0.0	▲61.1	▲60.0	▲6.6
6月	▲27.8	▲9.0	▲35.2	▲51.8	±0.0
7月	▲23.6	±0.0	▲47.0	▲39.1	▲6.6
見通し	▲14.4	▲4.7	▲11.7	▲21.7	▲20.0

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

## 「柏市」の業況

業況D Iはやや改善。先行きは依然として不透明で、慎重な見方が続く。

7月の全産業合計のD I値(前年同月比)ベース、以下同じは、▲23.6(前月水準▲27.8)となり、マイナス幅が4.2ポイント縮小した。業種別では、前月水準と比べて、マイナからプラスに転じた業種は、建設業±0.0(同▲9.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲39.1(同▲51.8)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲6.6(同±0.0)である。マイナス

幅が拡大した業種は、製造業▲47.0(同▲35.2)である。

【建設業】からは、「顧客で熊本応援の気持ちがある方が多く、1家庭で20畳を超える和室がある顧客からも畳の受注が増加している。」(内装工事業)、「全体的な不況感があり、活気が無い。熟練者の高齢化・廃業による人手不足になり、工事の受注に影響が出始めている。売上も何とか現状維持が出来ればといった業況となりそう。」(その他の職別工事業)、「熊本地震による住宅の耐震性のニーズは着実に増えている。」(一般土木建築工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「約1千万円かけて新規設備の導入、入替を実施し、業務の効率化を図る。」(その他の金属製品製造業)、「昨年末から続いている受注の冷え込みが業績に影響を及ぼしていたが、ここに来て多少の受注の盛り返しがあり、下期の売上、収益改善に期待している。」(その他の機械・同部分品製造業)、「売上高ばかりを追求するのではなく、利益を精査していくことが経営において重要である。営業・経理部門の総合認識が必要。」(印刷業)などのコメント

トが寄せられた。

【卸小売業】からは、「最近の気候は西日本、東日本と梅雨明けが不透明となった天気がいざばらくなり、日照時間、降水量、気温等が作物の生育状況に影響を与えることが懸念されている。夏季休暇中のイベント等において、生鮮食品を迅速に、安心・安全供給を図っていきたい。」(食料・飲料卸売業)、「婦人衣料を中心に夏物は好調に推移。住居関連は売り場縮小後全体的に悪化が続くも、介護用品だけは好調となった。」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「不動産の購入意欲は高い傾向にあるが、価格に対しては厳しく、物件を見学してから契約を結ぶまでの期間が長くなっており、慎重な姿勢の顧客が多い。価値の高い物件の売れ行きは好調。」(不動産管理業)、「売上・利益ともに上がっているが、利益率は下がっている。パート、アルバイトの人件費は高騰する一方。」(食堂・レストラン)、「円高傾向、燃油の海外旅行が人気。欧州はテロの影響で減少。国内個人旅行は北海道、九州が人気。秋口の法人需要が旺盛に。」(旅行業)、「優良な収益物件が売買市場から枯渇している状態

がしばらく続いている。」

(不動産管理業)、「商品の値上げ競争は一段落し、今後は逆にメーカーとの値引きの商談に移行すると思われる。また、昨年の販売予測で仕入れた商品が過剰在庫となり、厳しい状況。」(その他の飲食料品小売業)などのコメントが寄せられた。

## 7月の景気キーワード

◎売上減少  
各業種より、「インバウンド売上が減少傾向。」(その他の各種商品小売業)、「食品は競合の出店以降伸び悩む。特に土用の丑の日が月末になり、柏まつりと重なり売上ロスが多かった。中元ギフト商戦も7月度は前年比80%の状況。」(その他の各種商品小売業)、「9月は上半期のβ日であるため、受注は増加する見込みだが、今年の7、8月は例年に無く少ない状況。」(石工・れんが・タイル・ブロック工事業、など)のコメントが寄せられた。

## ◎競争激化(出店ラッシュ)

各業種より、「大型SCやスーパーの相次ぐ出店が業績に影響を及ぼしている。」(菓子・パン小売業)、「各衣料品メーカー商品の生産調整が進み、在庫不足でバーゲン対応商品が品薄になっている。買回り品は周辺に大型SCが多く出店したため売

上減少。」(婦人・子供服小売業)、「今年の柏市への新規食料品小売業の進出は過去20年の間で最も多く、他店との差別化を一層進めなければならぬと感じている。また、人手不足は今後も続くと考えられ、働く人の環境について考えていく必要がある。」(各種食料品小売業)などのコメントが寄せられた。

## ◎先行き不安

各業種より、「新築物件の受注が減少しており、先行きも不透明。リフォーム受注はあるが、利益が伸びない。」(その他の職別工事業)、「施工単価・仕入材料単価は変動していないが、先行き見通しがつかめない状況。」(電気工事業)「設備投資がやや緩やかになっている印象。下期は業況がかなり落ち込む可能性がある。」(ソフトウエア業)などのコメントが寄せられた。

## CCI・LOBOとの比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲23.6に対し、「CCI・LOBO」が▲24.5で柏の方がマイナス幅が0.9ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業サービス業であり、両業種ともに10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業では10ポイント以上悪い。

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測 (7月速報)

調査期間：平成28年7月14日～21日

調査対象：全国の422商工会議所が2962企業  
にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

**業況DIは、ほぼ横ばい。  
先行きも懸念材料多く、慎重な見方が続く**

7月の全産業合計の業況DIは、▲24.5と、前月から+0.3ポイントのほぼ横ばい。好調な観光需要や住宅建設の持ち直し、原材料価格の下落、依然として低い水準の燃料費が中小企業の業況感を下支えしている。他方、英国のEU離脱決定による株価・為替の不安定な推移や消費低迷の長期化、人手不足の影響拡大を懸念する声も多く聞かれた。

先行きについては、先行き見通しDIが▲23.2（今月比+1.3ポイント）と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因。夏の観光需要の拡大、飲食料品や家電など夏物商品の販売増加、経済対策・補正予算に期待する声が聞かれる。他方、金融市場の不安定な動きに伴う消費の一段の悪化、人手不足による受注機会の損失や人件費の上昇、海外経済の減速など懸念材料も多く、中小企業においては、先行きへの慎重な見方が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

**【建設業】**「公共工事では、国や県の発注量は前年同月比で減少しているものの、市町村の発注量は増加した。今後、補正予算などにより国・県の発注も増加することに期待」（一般工事業）  
「英国のEU離脱決定によって、英国での事業に出資している既存取引先が、設備投資等に慎重になるのではないかと、懸念している」（電気工事業）

**【製造業】**「円高により、輸入原材料の仕入価格が低下したことで、採算に改善がみられた」（水産食料品製造業）  
「熊本地震で瓦が落下したとの報道により、瓦の需要が低迷している。特に関西での需要に落ち込みが目立つ」（窯業）  
「中国経済の減速や円高の進行による造船業の生産減少に応じて、その部品を製造する当社への発注量も減少している」（金属製造業）

**【卸売業】**「売上の伸びが期待できないため、仕入先や仕入商品を変え、粗利を改善させた。今後は、他企業と協力して、プライベートブランドの開発に取り組む」（飲食料品卸売業）  
「天候不順などにより、一部の農産物の品質悪化や数量の減少が見られ、価格が高騰している。8月一杯はこの状況が続く見込み」（農産物卸売業）

**【卸売業】**「売上の伸びが期待できないため、仕入先や仕入商品を変え、粗利を改善させた。今後は、他企業と協力して、プライベートブランドの開発に取り組む」（飲食料品卸売業）

「九州を中心とした豪雨の影響で、昨年比べて客足が伸びず、売上が悪化した」（飲食店）

**【小売業】**「円高の影響により、高額な陶磁器を中心にインバウンド需要が減少傾向にあり、海外向けのインターネッツト販売も低迷している」（小売業）  
「お中元の売上は好調で、前年同月比を上回ったものの、高額品の低迷が全体の売上額を押し下げている」（百貨店）  
「夏のセールで値頃感が出たブランド衣料品の売上が好調で、前年を上回り推移している」（商店街）

**【サービス業】**「夏場にかけて飲料品の出荷が伸び、対応できるか心配したが、女性ドライバークの活用で乗り越えられそう」（運送業）  
「7月は祭りなどの大きなイベントが多くなり、観光客を中心に売上は増加した。引き続き8月も予約

は好調である」（旅館業）  
「九州を中心とした豪雨の影響で、昨年比べて客足が伸びず、売上が悪化した」（飲食店）

### 全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
2月	▲22.8	▲18.2	▲23.8	▲19.7	▲34.0	▲15.5
3月	▲23.6	▲17.8	▲18.4	▲25.9	▲41.8	▲14.6
4月	▲21.0	▲18.8	▲16.2	▲31.3	▲32.0	▲12.7
5月	▲22.8	▲21.0	▲13.2	▲25.1	▲36.2	▲20.4
6月	▲24.8	▲22.5	▲22.1	▲30.4	▲39.9	▲12.5
7月	▲24.5	▲22.6	▲20.8	▲27.5	▲37.2	▲16.9
見通し	▲23.2	▲19.2	▲18.4	▲23.8	▲37.4	▲17.9